

京極読書新聞 <第60号>

発行日 平成26年 9月1日(月)
京極町生涯学習センター湧学館

京中生に インタビュー 2014

第3回

おとなの人たちも、中学生が読んで
いる本に目を向けてください。意外な
発見があるかも… <編集部>

渡辺夢那 さん(3年)「マナは海に向かう」 守花 さん(3年)「小説 カノジョは嘘を愛しすぎてる」



左：守 花さん
「小説 カノジョは嘘を
愛しすぎてる」
豊田美加／著（小学館，2013）

右：渡辺夢那さん
「マナは海に向かう」
喜多嶋隆／著（光文社，2013）

——「カノジョは嘘を愛しすぎてる」。原作は青木琴美のマンガ「Cheese！」なんですけど、そこから映画化されたり、テレビドラマでサイドストーリーがつくられたり、いろいろな話に展開しているんですね。守さんが読んだのは2013年の映画のノベライズ本ですか？

守 そうです。今までは学校で勧められた本ばかりを読んでいたのですが、今回初めて自分で興味を持った本を読書感想文に選びました。

——感想文に、最初はただの恋愛小説だと思って読み始めたけれど、読み終わったらいろいろすばらしいことを教えられたとありますね。

守 恋人同士の感情のもつれみたいのが書かれているのかなと思っていたのですけ

ど、それよりは、親とか友だちといった普通の人間関係の中での思いやりの場面がいっぱいあって、「人を大切にする心」に気づかされました。

——なるほど。「人を大切にする心」は「マナは海に向かう」の中にも流れていて、こちらを読んで得した！と思った本でした。

渡辺 主人公・マナの祖父を思う気持ちにとても共感します。マナの、意志を貫き通すたくましさ、重要なことを見逃さない心に感動しました。

2ページ目へ続きます

京極読書新聞は 毎月1日発行です。



1ページ目からの続きです

——「重要なこと」か。本当にそうですね。私が感心した場面のひとつが、マナと克己の出会いの場面です。山村克己。親に決められたレールの上を歩むしかない克己の人生。「大学、うけないんだって？」とおずおずと聞く克己に、マナは「それは、大学に行く前に、やっておきたいことがあるんで…」と答えるんですね。これがすばらしい。「君にとって大学とは何？」などと野暮な受け答えはしない。でも、「大学より重要なことがあるんだよ」というマナのメッセージはピシッと克己の心の中に届いている。やったね！と思いました。「カノジョは嘘を愛しすぎてる」の「嘘」とは方法がちがうんだけど、このマナの言葉・姿勢も、ある種の「人を大切に作る心」なのかなあと思いました。

渡辺 祖父・莊一郎が命をかけて巨大マグロと戦った誇りを守るためにマナの選んだ決断、今度は私があの巨大マグロを仕留めてみせる！をとてもうらやましく思います。「剛毅果断」という言葉を思い出しました。

——そして、あのラストですからね。私は、一瞬、本家のヘミングウェイ「老人と海」を越えたんじゃないか…とさえ思いました。

渡辺 海中の巨きなキハダマグロを「限りなく美しかった」と書いています。マナのとった判断に最後は私も納得しました。

——最近、読んだ本とか、ありますか？

守 西村君が感想文でとりあげていた「桐島、部活やめるってよ」はうちにもあるんです。あるけど、まだ読んではいないので、まずはそれを読もうと思います。

インタビュー2014を終えて 新谷保人(湧学館司書)

今年の「京中生にインタビュー2014」でとりあげた14作品のうち、インタビュー前に私が読んでいた本は「ひめゆりの少女たち」と「1リットルの涙」の2冊だけでした。あとの12冊は未読本で、すべてインタビュー当日までに急いで読んだ本です。

「永遠のO」や「桐島、部活やめるってよ」のように、話題になっている本なんだから読まなくちゃ…とと思っているうちに読書感想文に先を越されてしまった本や、「ウルルの森の物語」や「クロス・ファイヤー」のように、おそらく、読書感想文がなかったら自分では絶対に手にしなかつたらと思う本まで、じつに多様です。

この傾向は年々強まっていて、4、5年前なら入賞作品の半分くらいは読んでいたものですが、今では、とてもそのような高打率は望めません。その分、なんとか振り切られないようにしようとインタビュー直前まで頑張っているのですが、それが、インタビューでは逆に効果を上げているのではないかと思う時があります。いろいろな本がある中から、どうしてこの人はこの本を読書感想文にとりあげたのだろう、もっと知りたいという気持ちがインタビューのテンポを上げます。



読んだ本の中で、個人的に「おっ！」と思った本が一冊ありました。「マナは海に向かう」。なにがカッコいいとって、各場面、場面でバックに音楽が流れている造りになっているのですが、その選曲が妙に私の好みと合うのです。たとえば、元ボクサーの茂さんが自分の過去を語る場面では、ボズ・スキャグスの「スロー・ダンサー」が低く流れはじめるとか。語り終える時には「ハーバー・ライツ」とか、けっこう芸が細かい。思わず、若い時に買ったレコード、聴きたくなりました。

インタビューで取り上げられた本は、湧学館で読むことができます。
「京極読書新聞」バックナンバーとあわせてお楽しみください。

松本 晴也くん（2年）「モルフェウスの領域」 藤村 梨乃さん（2年）「私の頭の中の消しゴム」

京中生に
インタビュー
2014
第3回



左：松本晴也くん
「モルフェウスの領域」
海堂尊／著（角川書店、2010）

右：藤村梨乃さん
「私の頭の中の消しゴム」
木村元子／著（小学館、2005）

——今日は「人間の記憶」つながりで、お二人にインタビューです。この2冊、どちらもおもしろかったなあ。松本君、この、医学・哲学用語続出の「モルフェウスの領域」、よく読みましたね。

松本 時間がかかりました。

——前半の人工凍眠に関する法医学問答はちょっとキツかったけれど、後半の、凍眠から目覚めたアツシと涼子のドラマ展開になってからは一気呵成。おもしろく読みましたよ。海堂尊のファンが感じてる海堂作品のおもしろさが少しわかったような気がしました。

松本 アツシ君が5年間眠っている間に両親が離婚。しかも、どちらも目覚めたアツシ君をひきとりたくないと言いだすなんて、ひどいと思いました。

——同じ時期に「私の頭の中の消しゴム」を読んでいたせいもあって、私は、アツシ君の5年前の「記憶」がどうよみがえってくるのか、5年間の「記憶」はどうなるのかといったあたりを興味深く読みました。だから、ラストのどんでん返しには感じ入ってしまいましたね。そうか、こういう形で人間の記憶はつながってゆくのか！と。

藤村 「私の頭の中の消しゴム」は、アルツハイマー病を発症した主人公・薫の「記憶」がどんどん消え去って行くお話です。

——薫の日記という形式のこの物語、なにか「1リットルの涙」を連想させますね。人間の身体や心が衰えて行く話は切ないなあ。

藤村 薫の日記に記された周りの人たちの反応に感動しました。特に、夫の浩介の言葉「俺がお前の記憶になる。薫が忘れたら、これまでのことを何度でも話すよ。その度に薫は俺に新しく恋をするんだ。別れるなんて絶対に言うな」には、浩介の強さと悲しみの深さを感じました。

——その夫の言葉でさえ薫の頭の中から消え去ってしまうかもしれない。だから、薫は日記に必死に書き留めるわけですね。そうか。「1リットルの涙」を連想したわけがわかりましたよ。二人とも、日記を書くことが、今自分が生きていることの証（あかし）だったんですね。

藤村 薫はアルツハイマー病が進行して施設に入ることになります。薫の姿が消え、独りぼっちになった浩介のもとへ、ある日、薫からの手紙が届きます。それは、まだ浩介の記憶が残っている時に書かれた薫の手紙だったのですが、物語は、この妻・薫の手紙を最後にぱっと終わります。大変印象的なラストでした。

——最近、読んだ本とか、ありますか？

松本 僕は野球部なので、「読書感想文コンクール作品集」で笹浪くんが紹介していた「考える野球」が読みたいです。

藤村 私は「永遠の〇」ですね。

平成26年度 文学散歩

胆振国虻田をたずねるバスの旅

後志の文学講座なのに、なぜか今年は「胆振」。でも、これでいいんです。昨年までの五年間に積み重ねてきた後志の文学読書会の、これはさらなる発展形ではあるのです。深いところで後志の私たちにつながっています。なにか地味で古くさい郷土史研究の旅を思い浮かべがちですが、そんなことはありません。本郷新から砂沢ピッキまで、北海道中の現代アートを一日で味わうことができたりする、けっこう斬新な今年度のバスの旅なのです。

定員：20名
 参加費：3,000円(当日の朝集めます)
 申込み：湧学館(電話42-2700)へ
 10/1(水)受付開始～10/5(日)締切
 ※定員になり次第締め切ります

平成26年10月11日(土)
 9:00～16:00



豊浦・礼文華海岸

～バスの旅・行程予定～



湧学館 午前9時出発

洞爺湖／武二郎坂

(松浦武二郎「後方羊蹄日誌」)

浮見堂 (聖徳太子像)

洞爺湖芸術館 (砂沢ピッキ、ほか)

豊浦／カムイチャシ公園

文学碑公園 (与謝野晶子、ほか)

礼文華 (イザベラ・バード「日本奥地紀行」)

昼食／長万部 かにめしドライブインかなや

長万部／平和祈念館 (本郷新、丸木俊、ほか)

郷土資料室・鉄道村

(和田芳恵「暗い流れ」／大森光章「シヤク
 シヤイン戦記」／幸田露伴「雪紛々」)

植木蒼悦記念館

豊浦／新山梨小学校・開拓十年碑

山梨小学校

(富士山ー羊蹄山ステンドグラス)

湧学館 午後4時到着予定
 「後志・胆振グッズ」抽選会

発行

京極町生涯学習センター湧学館
 〒044-0101 京町字京極158番地1
 TEL 0136-42-2700(代表)
 FAX 0136-42-2032
 E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

